

令和8年8月20日

13時45分 受付

一般質問発言通告書

議席番号 13 番

氏名 柳楽 真智子

答弁を求める者

(○をつける)

市長 教育長 監査委員 選挙管理委員会委員長

農業委員会会長 固定資産評価審査委員会委員長 公平委員会委員長

発言項目及び要旨

1. ひきこもり支援について

(1) 実態把握について

- ①ひきこもりの実態把握については、これまでの一般質問の答弁では県が実施しているとのことであった。市として調査を実施することでより実態が見えてくると考えるが、現在の実態について伺う。
- ②浜田市では実態把握のために、民生児童委員、福祉関係者等と連携して、調査を行う考えがあるか伺う。

(2) 家族支援の充実について

- ①会派視察で宇部市のひきこもり支援について調査を行った。宇部市ではNPO法人「ふらっとコミュニティ」に委託され、ひきこもり支援の第一段階として家族支援を重視されており、家族がひきこもりや発達特性などについて学ぶ基礎講座に加え、毎月継続して実際の声掛けや接し方を学ぶ、実践的な家族心理教育を行っている。浜田市でも家族が本人との関わりを継続的に学べる、家族心理教育のようなプログラムを導入する考えはないか伺う。
- ②家族が一度相談窓口を訪れても、本人が相談を拒否していることなどを理由に、その後の支援につながらないケースも考えられる。本人が支援につながらない場合であっても、家族への相談支援を継続し、本人を支援に繋げる機会を待つ「伴走型」の支援が重要と考えるが、家族への継続支援の現状を伺う。

(3) 支援者の育成について

- ①宇部市では、ひきこもり支援について、本人や家族への支援だけでなく、民生委員やケアマネージャーなど地域で相談を受ける人たちの支援力向上に取り組んでいる。ひきこもりは、年齢、家庭環境、発達特性、精神疾患、経済的困窮など様々な要因が複雑に絡むため、最初に相談を受ける人が適切な知識を持っていることが重要である。浜田市においても、民生児童委員、地域包括支援センター職員、介護支援専門員、福祉関係者、学校関係者等を対象とした、ひきこもり支援に関する体系的な研修を実施されているか伺う。

- ②今回の会派視察で伺ったNPO法人「ふらっとコミュニティ」代表のお話は、支援側

や家族の対応による成功事例を含んでいて、より実践に役立つと感じたことから、是非とも浜田市の市民の皆様にも聞いていただき、ひきこもりに対する正しい知識と対応の在り方を知っていただきたいと考える。この代表を招いた講演会の実施ができないか伺う。

2. 疾病予防と健康寿命の延伸について

(1) 胃がん予防とピロリ菌検査について

- ①市として、ピロリ菌感染と胃がん発症との関連性及びピロリ菌感染を早期に発見することの意義について、どのように認識しているのか伺う。
- ②胃がん予防の観点から、ピロリ菌について市民にどのような情報提供や啓発を行っているか伺う。
- ③浜田市では現在、ピロリ菌検査の費用助成が行われている。40歳から64歳までの人で、令和3年度以降にこの事業で市の助成を受けていない人を対象に、検査費用に対して2,000円を助成するというものだが、事業開始から現在までの効果を含む利用実績について伺う。
- ④ピロリ菌感染により、慢性胃炎から萎縮性胃炎、そして胃がんへと進行することから、早い年齢で除菌した方がいいと考えるが、所見を伺う。
- ⑤今回特に提案したいのが、若い世代を対象としたピロリ菌検査である。佐賀県では中学3年生を対象とした検査に取り組んでいる。個々に検査を受けるよりも学校健診のような機会を利用して行うことで、普及啓発にもつながり、費用面も合わせ効率的に実施できるとの観点もあるようだ。将来の胃がんリスク低減につながる可能性があると思うが、中学3年生を対象としたピロリ菌検査を実施する考えはないか伺う。

(2) 糖尿病の重症化、失明、下肢切断の予防について

- ①糖尿病の合併症は、小さい血管が損傷を受けることから始まる。小さい血管の損傷によって腎臓が障がいを受けて透析、網膜が障がいを受けて失明、下肢が障がいを受けて切断などの合併症が起こっている。浜田市として、「人工透析への移行防止」「糖尿病網膜症による失明」「足病変・足切断予防」の重症化予防をどのように位置づけているか伺う。
- ②特に足病変は小さな傷の段階で発見することが重要で、見逃してしまうと短期間で悪化し、切断に至ってしまう危険性がある。これらの重症化について、市民に対する予防啓発や初期対応についてどのように取り組んでいるか伺う。

(3) 非結核性抗酸菌症と呼吸器疾患の予防・啓発について

非結核性抗酸菌症は、土壌や水系などの自然環境や、浴室のシャワーヘッド、水道の蛇口等に生息しており、非結核性抗酸菌を含むエアロゾルの吸入等により、灰の中に取り込まれる。一方で、吸入しても発症に至らない例があるため、発症は個々の免疫力や体質に依存すると考えられている。

- ①浜田市において、非結核性抗酸菌症について市民からの相談や、啓発を行った実績があるか伺う。
- ②非結核性抗酸菌症は人から人へ感染する病気ではないことを含め、病気について正しく理解してもらうことが、患者への偏見防止の面からも重要である。初めに述べたように、免疫力が低いとリスクが高まることから、高齢者や肺に基礎疾患がある人は特

に注意が必要である。9月24日から30日までの「呼吸器感染症予防週間」と同期間で非結核性抗酸菌症予防の啓発が行われることとなった。この期間で浜田市ではどのような啓発が行われるのか伺う。

- ③島根大学医学部には、日本結核・非結核性抗酸菌症学会の理事長を4年間務めた、磯部威(いそべたけし)名誉教授がおられる。このような専門医や関係学会とも連携し、市民講演会や広報などの啓発事業を行ってはどうかと考えるが、所見を伺う。

(4) 新型コロナウイルス感染症予防について

新型コロナウイルス感染症による死亡は、5類感染症になる前と後で変わっていない。死亡は80歳以上の方に集中しており、インフルエンザ感染による死亡の10から15倍となっている。新型コロナウイルス感染症がクラスターを作る性格は変わっておらず、特に高齢者施設などで暮らす方や透析患者などへの支援が必要との意見も伺っている。

- ①高齢者、特に施設利用者や透析患者等は、感染した場合のリスクが高く、集団的な医療を受けざるを得ない方について、市として重点的な情報提供や予防対策が必要と考えるが、その対策について伺う。

(5) 高齢者の低栄養・フレイル・骨折予防について

痩せ過ぎや低栄養によって筋肉量が減り、フレイルが進んで転倒や骨折に繋がる可能性がある。免疫力が低下することで肺炎などにもかかりやすくなる。

- ①高齢者の体重減少や低栄養リスクを早期に発見し、管理栄養士等の支援に繋げる体制は十分なのか伺う。
- ②高齢者の転倒・骨折による入院と、その後の要介護認定についてどのように分析しているか伺う。

(6) 予防への投資について

これまでピロリ菌、糖尿病、低栄養、フレイル、骨折などについて質問してきた。これらは早い段階で対策を講じれば、その後の重症化や入院、要介護状態への移行を防げる可能性がある。新しい検診や啓発事業を行えば支出は増えるが、一方で、その検診や啓発によって重症化を防ぐことができれば、国民健康保険や後期高齢者医療の医療費が減る可能性がある。

- ①市では現在、健康診査や保健事業にかけた経費と、その後の医療費・介護給付費の変化を関連付けて分析しているか伺う。